

# 初級ウクライナ語

科目責任者：竹 内 高 明（基本医学）

## I. 前 文

本講座では、極めて不幸な契機ではあるが、ロシアによる全面侵攻を機に日本でも広く知られるようになったウクライナの公用語であるウクライナ語の基本的な知識を身につけ、国内外のウクライナ人と交流し、ウクライナの文化・歴史に触れる手がかりとする。

## II. 受入可能人数

人数制限は特に設けない。

## III. 担当教員

竹 内 高 明（基本医学）

## IV. 学習内容

ウクライナ語の文字と発音・初級文法を学び、短いテキストの読み書きや簡単な日常会話の練習を行う。履修人数に応じ、可能な範囲でペアワークやグループワークを実施する。

## V. 学修の到達目標

1. ウクライナ語の発音・基礎的文法知識・語彙を習得する。
2. ウクライナ語による簡単な日常会話ができる。
3. ウクライナ語による簡単な読み書きができる。
4. さらに継続してウクライナ語を学ぶためのスキルを習得する。

## VI. 成績評価の方法・基準

学習内容に即して各授業の初めに行う確認テスト（各回10分程度）30%、最終回に行う口頭試験（一人15分程度）40%、授業への取り組み・課題提出・出席を30%として評価する。

## VII. 使用する教材・資料など

『ニューエクスプレス+（プラス）ウクライナ語』（中澤英彦：著、白水社）を教科書として用い、必要に応じてプリントを配布し、視聴覚教材を導入する。

## VIII. 質問への対応方法

授業中・授業後に受け付けるほか、語学・人文教育部門室（本部棟3階）でも月～金曜に対応可。後者の場合は、事前に内線番号2161、またはメールアドレスt-take@dokkyomed.ac.jpを通じてアポイントを取ること。

## IX. 求められる事前学習、事後学習及びそれに必要な時間

事前学習：授業で用いる読解テキストや視聴覚教材を事前に読みまたは視聴し、語彙や文法事項の確認を行う（15分程度）。

事後学習：授業の内容に即して与えられる書面または口頭の課題を準備し、確認テストに備える（15分程度）。

## X. コアカリ記号・番号

PR-03-01-01 人の生命に深く関わる医師に相応しい教養を身につける。

CM-02-01-01 患者や家族の多様性（高齢者、小児、障害者、LGBTQ、国籍、人種、文化・言語・慣習の違い等）

に配慮してコミュニケーションをとることができる。

SO-06-01-03 個や集団に及ぼす文化・慣習による影響（コミュニケーションの在り方等）を理解している。

#### XI. 課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法

事後課題や確認テストについては添削・返却し、授業中に解説する。

#### XII. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

| ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）  |   |
|---|---|
| 医師としてのプロフェッショナリズム<br>幅広い教養、利他の精神、医師に求められる品格を身につけ、豊かな人間性を育み、他の医療者と協調して、多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる | ◎ |
| 能動的学修能力<br>医学知識・技能を主体的に学び、情報・科学技術を活用して、生涯にわたって自ら問題を発見し、解決することができる                             | ○ |
| 地域医療の理解<br>地域社会における医療の役割と、その中核を担う意味を理解できる   |   |
| 国際性<br>国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し、課題解決に向けて行動することができる   | ○ |
| リサーチマインド<br>研究活動における積極的な創造・発信に挑み、医学・医療の進歩に貢献することができる  |   |